



立教大学大学院公開講演会

主催：異文化コミュニケーション研究科・異文化コミュニケーション専攻
共催：「言語と人間」研究会



日時：2014年12月20日（土）15:30～17:30
会場：池袋キャンパス11号館2階A203教室

製品開発・宣伝広告の最前線： 「オノマトペ」から定量化する質感と感性

見たり、触れたりするものから感じたことを表す際に用いられる、「ふわふわ」「さらさら」などの「オノマトペ」は、製品の特徴を直感的に伝えるものである。よって、製品開発・宣伝広告において、オノマトペは顧客の要望を把握したり、顧客にはたらきかけたりするための重要な情報を伝達する媒体となる。本講演では、オノマトペが喚起するイメージを利用して開発し、実際に企業で活用されているいくつかの工学的技術を紹介する。同時に、このことを通じて、認知言語学の基礎研究や認知科学の実験手法をどのように応用することができるか、その可能性について幅広く検討する。

講師 坂本 真樹 氏（電気通信大学大学院 情報理工学研究科総合情報学専攻 准教授）

略歴：東京大学大学院総合文化研究科言語情報科学専攻博士後期課程単位取得退学。博士（学術）。東京大学助手、電気通信大学電気通信学部情報通信工学科講師を経て、2004年4月同学部人間コミュニケーション学科助教授、2007年4月同学科准教授、2011年4月より現職。専門は認知科学、認知言語学、感性工学。認知言語学の理論的枠組みで、言語知識の相互作用（比喩）、五感の相互作用（共感覚）の分析を行うとともに、その知見を工学的に応用した研究を手がけている。

著書に、『女度を上げるオノマトペの法則』（リットーミュージック、2013）、共著書に『メタファー研究の最前線』（楠見孝編、ひつじ書房、2007）、『オノマトペ研究の射程－近づく音と意味』（篠原和子・宇野良子編、ひつじ書房、2013）、その他共著書、論文、産学共同研究、招待講演、受賞多数。

対象 異文化コミュニケーション研究科学生
本学学生、教職員、校友、一般市民

**受講無料
申込不要**

問合せ先 立教大学 独立研究科事務室 TEL：03-3985-3321
〒171-8501 東京都豊島区西池袋3-34-1

